福井新聞　2015年12月8日　掲載

新聞　2015年（平成27年）12月8日（火曜日）

福井

## 木質バイオマス利活用セミナー

# 熱供給事業 理解深める

木質バイオマスのエネルギー利活用をテーマにしたセミナーが7日、福井市のアオッサで開かれた。県内外の企業、行政、NPOなどから関係者約70人が参加し、全国的な動向と県内で進められている熱供給事業などについて理解を深めた。

県内外から参加した約70人が、木質バイオマスの利活用策を学んだセミナー＝7日、福井市のアオッサ

日本木質バイオマスエネルギー協会（東京）が企画した。三菱UFJリサーチ&コンサルティング主任研究員の相川高信氏は、ドイツでは再生可能エネルギーを増やしていく政策目標に、木質バイオマスの熱利用が貢献している点を指摘。一方、林業従事者が減る日本では「既存の林業事業体による木材回収はマンパワーの点で限界がある。将来的には北欧のように高規格の林道脇に残材を置き、効率よく回収するシステムが求められる」と説いた。

また国内各地で行われている熱利用の事例を紹介。「森林資源活用や地域産業振興といった視点だけで立案され、経済性確保や環境への配慮が欠けているケースもある」とも述べた。

県内で熱供給事業を進めている「あわら三国木質バイオマスエネルギー事業協議会」事務局の土田和希人氏は、あわら、坂井両市にある温泉旅館3カ所へのボイラーの設置状況などを説明。「地域住民の理解と賛同を得ることに重きを置きながら、ビジネスモデル構築へのノウハウを積み重ねている」と話した。

講演後は▽熱利用▽発電▽燃料供給▽薪ストーブ・ボイラー―の四つのテーマごとにワークショップがあり、参加者同士で意見交換した。

（前田卓）